

道徳の時間学習指導案

東広島市立三ツ城小学校

教諭 佐々木 夕子

- 1 日 時 平成 26 年 7 月 8 日
- 2 学 年 第 5 学年 2 組 男子 18 人 女子 15 人 計 33 人
- 3 主題名 思いやりの心 2 - (2) 思いやり・親切
- 4 資料名 「あれでよかったの？」 (光村図書 道徳 5 年 「あれでよかったの？」 一部抜粋)
- 5 ねらい 電車で席を譲ろうかと迷う男の子がどうすべきかを話し合うことを通して、本当の思いやりについて考え、相手の立場に立って温かく接しようとする態度を養う。

6 主題設定の理由

- 主題は、小学校学習指導要領解説道徳編の高学年内容項目 2 - (2)「思いやり・親切」を基に設定した。思いやりとは、哀れみや同情、おせっかいなどではなく、他人の困難や苦しみを自分のこととして受けとめ、その悲しみや苦しみを理解し、何らかの支えになろうとする心情である。しかし、時として人は、恥ずかしかったり、おせっかいと思われるのではないかとためらったりして、行動に移せないことがある。また、行動に移したとしても、一般的に親切だと思われる行動をとることにとどまり、相手に応じた、相手のための親切になっていないこともある。相手の気持ちを推し量り、その人の身になって考える力は、社会の基盤である。相手の立場や気持ちを真剣になって考え、深い思いやりの心をもって、親切な行動ができるような態度を育てていきたい。
- 本学級の児童は、素直で優しい気持ちをもっている児童が多い。友達が困っている時には、「どうしたの。」「大丈夫。」と、何人もの児童が声をかけたり、友達がけがをした時には一緒に保健室までついていってあげたりする姿がよく見られる。しかし、親切だと思ってしたことが、本当は相手のためになっていなかったり、必要以上に親切にしてしまったりする場面も見かける。質問紙調査では、<略>これらのことから、親切にしたことがあるという児童は多いが、その対象は身近な人であることが多く、知らない人に対して親切にすることをためらう児童が多い。また、相手の本当に望むことなのかどうかまで考えて行動している児童は少ないと言える。
- 本資料は、次の 4 つの場面で構成されている。①電車の座席に座っている男の子が、同じ車内で立っているおじいさんに気付く場面。②男の子がおじいさんに進んで座席を譲り、おじいさんは、立っている方が楽なのにと思いながらも席に座る場面。③おじいさんが席から立ち上がろうとした時、足を痛がる場面。④数日後、男の子が電車の座席に座っていると、座れずに立っているおじいさんに気付く。このおじいさんは、座れたら楽なのにと思っているが、男の子は席を譲ろうかと迷う場面。親切にすることの大切さを理解している児童にとって共感しやすく、かつ、新たな視点に気付かされる資料である。「親切だと思ってやった」「結果として相手を困らせた」という相反する 2 つの状況について考えていくことで、思いやりとは何かという価値について深く考え、相手の立場に立った思いやりある行動をとろうとする道徳的態度を養える資料である。
- 指導に当たっては、問題解決型の道徳の時間の授業を設定することで、児童が主体的に道徳的問題の解決を図ることができるようにする。主人公の葛藤する姿に共感させ、相手の力になるためには相手の立場や気持ちを理解しようとするのが重要であることに気付かせる。そして、モラルスキルトレーニングを取り入れ、相手の気持ちを理解する一つの方法として、「尋ねる」というスキルを体験させ、道徳的実践に向けての自信をもたせたり、親切にしたときの喜びを体感させたりし、内面的資質の育成を図る。また、状況によって親切にする表現方法は違うが、大切なのは、相手の立場に立って考えることであることにも気付かせたい。

7 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される児童の心の動き	指導上の留意点
導入	1 ねらいとする道徳的価値にふれる。	○4枚の絵を見て、どんな場面か考えてみましょう。	・どれも相手のことを思いやり、親切にしている場面であることをとらえさせる。
展開前段	2 資料「あれでよかったの？」を見て話し合う。 (1) 道徳的問題に気づき、課題をもつ。 (2) 登場人物の心情を基に、解決策を吟味する。	○男の子は、何を迷っているのでしょうか。また、なぜ迷っているのでしょうか。 ・席を譲ろうかかどうしようかと迷っているから。 ・以前、譲ったら、反対に迷惑をかけたから。 ○何が問題なのでしょうか。 ・このおじいさんが、座りたいのか座りたくないのかが分からないこと。 ○「私」は、どうしたらいいのでしょうか。ワークシートに個人で解決策を書いてみましょう。書けるところには、解決策を考えた理由と、その結果の長所(○)、短所(△)を書き込みましょう。 ○解決策を発表し合い、長所と短所を考えてみましょう。 ア) 席を譲る。 ○親切ができて、自分がうれしい。 ○多くの場合、譲ってもらう方もうれしい。 △本当は、迷惑かもしれない。 イ) 座りたいのかを直接聞く。 ○おじいさんが一番してほしいことをしてあげられる。 ○おじいさんの役に立てて、自分もうれしい。 ○おじいさんは一番してほしいことをしてもらえて、うれしい。 ウ) 黙って立つ。 ○おじいさんが、選べる。 ○いいことをした気持ちになって、自分はうれしい。 △他の人が座るかもしれない。 △おじいさんも遠慮して座らないかもしれない。	・資料に含まれる道徳的問題に気付かせる。 ・多様な視点から道徳的価値について考えられるよう、解決策をできるだけたくさん挙げさせる。 ・根拠を明確にするために、解決策を発表した後、理由を説明させる。 ・解決策の長所と短所を視覚的に捉えやすくするために、色分けして板書する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center; background-color: #e0f0ff; margin: 0;">解決策の吟味を促す発問の工夫</p> <p>○ウ) の人は、どうして黙って立つの？ どうせ自分が立つのなら、イ) のように、聞いてから立ったらいいのではないですか？</p> <p>○自分が座りたくないおじいさんの立場で、譲ってくれたら、どう思うでしょう。</p> <p>○もし座りたくなければ、声をかけてもらわない方が親切なのでしょうか。</p> <p>○どうすることが一番いいでしょう。</p> </div>			
		○どうすることが一番いいのでしょうか。 ・直接、相手に気持ちを尋ねる。 ◎本当の思いやりって、どういうことなのでしょう。 ・相手がどうしたいか、相手の気持ちになる。 ・相手の気持ちを理解するために、声をかけたり、尋ねたりする。 ・相手が喜ぶことをする。 ・相手の役に立つ。	・みんなにとってよりよい解決策を考えさせる。 ・まずは、相手を助けてあげたいと思う気持ちをもてるのが大切であり、直接尋ねられない時には、相手の立場に立って考え、「自分だったらこうしてもらいたい」ということをすることが大切であることを補足説明する。

展開後段	3	<p>話し合いを基に、モラルスキルトレーニングを行う。</p> <p>(1) 全体シェアリングを行い、行動化のイメージをもつ。</p> <p>(2) ロールプレイングとペアシェアリングを行う。</p>	<p>モラルスキルトレーニングの工夫</p> <p>○相手の本心を引き出すために、声をかけたり尋ねたりしてみましょう。</p> <p>◇表情は ・笑顔 ・優しい顔 ・心配そう</p> <p>◇話し方は ・聞こえる声 ・あまり大きすぎないように</p> <p>◇言葉は ・こんにちは ・座られますか (おかけになりますか) ・代わりましょうか</p> <p>◇態度は ・礼儀正しく</p> <p>○ペアで男の子とおじいさん役になって、声をかけ合ってみた後で、声をかけて感じたこと、声をかけられて感じたことやアドバイスなどを話し合います。</p> <p>・自分のことを心配してくれていることが伝わってきて、何だかうれしかったよ。</p> <p>・声をかけるのに少し勇気があるけど、断られてもすがすがしい気持ちになったよ。</p> <p>・どうしたら力になってあげられるのか、もっと考えたくなったよ。</p> <p>○今度はペアを変えてやってみましょう。終わったら、ペアシェアリングをしましょう。</p> <p>(3回以上、ペアを変えてロールプレイングとシェアリングを行う。)</p> <p>○最初に出した4枚の絵では、どのようにして相手の気持ちを尋ねますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手の気持ちの尋ね方」をめざす姿として提示し、意識させる。 ・行為の根底にある内面に気付かせるために、その行為を行う理由を明確にさせる。 ・様々な視点から内面に気付くことが出来るよう、立場を入れ替えながら行わせる。 ・実践に向けての意欲をもたせるために、肯定的評価をさせる。 ・内面と行為を関連させるために、行為のどういうところが良かったのか、なぜ良かったのか、気持ちを表す言葉を入れながら感想を言わせる。(アドバイスの時も同じ) ・望ましい行為を強化するために、手本にしたい行為や全体に共有させたい内容は、必要に応じて全体で確認する。 ・他の場合も考えさせることで一般化させる。 ・どのような場合でも、どのような言葉でも、相手を思いやる気持ちと態度があることを肯定的に評価する。
	4	<p>学習のまとめをする。</p> <p>学習を振り返り、道徳的価値の自覚を深める。</p>	<p>○今日の学習を振り返ってみましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の話し合いやモラルスキルトレーニングを通して感じたことや分かったことなどを自由に書かせる。

見通し

自信・意欲

展開後段

終末

8 板書計画

相手の気持ちが分かれば、いかに

○もし自分が相手の立場なら・・・

○相手はこうしてほしいだろう

相手の本心を引き出すために
表情・・・心配そうに 優しい顔
話し方・・・ちよんどの大きい言葉・・・
「代わりましょうか?」「おかけになりますか?」

思いやりの心

声をかけてもらったら

「もし断られたら 恥ずかしい」

気がしてくれて
ありがたいけど・・・

座らないと 困ったな 悪いな

解決策	理由	結果 (○と△)
席を譲る	譲ってもらえると、多くの場合はうれしいから。	○親切ができて、自分がうれしい。 ○おじいさんもうれしい。 △本当は、迷惑かもしれない。
座りたどうかを直接聞く。	直接聞けば、相手の思いが分かると、どうすればいいか判断できるから。	○おじいさんは自分の思う通りに行動できていい。 ○いいことをして、気持ちいい。 △おじいさんも、遠慮して座れないかもしれない。
黙って立つ。	席が空いていれば、座るかどうかはおじいさんが判断できるから。	○おじいさんは自分の思いやりの心で、相手の望むことをしてあげられて、自分もうれしい。

あれでよかったの? 問題

○席を譲った方がいいのか?

○譲ったら、迷惑かもしれない

○おじいさんは、どうしたいの?